

裁判所の役割、仕事学ぶ

大津地裁 武佐小児童 オンラインで

憲法週間(一―七日)に合わせ、大津地裁・家裁が十一日、近江八幡市の武佐小学校六年生の教室と法廷を結んで「見よう聞こう話してみよう 裁判官オンラインインタビュー」を開催。児童らは裁判所の役割や仕事について、画面越しに学んだ。

(松田雄亮)



オンラインで画面越しに児童からの質問に答える中野裁判官＝大津地裁で

児童からのインタビュー 野彩華裁判官(三〇)。裁判官に会えたのは、刑事部の中になろうと思った理由を聞

かれると「大学生の頃に興味を持った」などと回答。「積極的に質問され、関心があることが伝わってきた」と語った。

法廷をカメラで映し出す「見学」では、児童らが歓声を上げた。参加した児童(二)は「裁判に休憩があることや、ドラマみたいに木づちをたたかないことを知って驚いた。もっと知りたかった」と話した。

毎年開催し、親子連れや市民らが裁判所を訪れて法廷を見学するなどしていたが、新型コロナウイルス禍で昨年に続き、オンライン開催となった。地裁の募集に応じた二―三校で、六月下旬までに実施する予定。